

2月18日 第2回情報交換会 ご挨拶：テクノロジストコンサルティング株式会社

代表取締役社長 主席テクノロジスト 黒岩 暎一

- 1 皆様、本日は、テクノロジスト育成塾の情報交換会に多数ご出席を頂きありがとうございます。
企業の情報システム推進、情報サービスビジネスには「人材育成が大事だ」との皆様の思いが集わせたのだと受け止めております。
- 2 また、ご多忙にも関わらず特別講義をお引き受けいただきました、東京海上日動の横塚常務さま、ありがとうございます。
皆様、大変、楽しみにされておられますので、後ほど、宜しく願いいたします。
- 3 さて、昨年2008年は既存秩序が物凄いスピードで破壊されました。
強固なものと信じていたことが、実は脆弱（ぜいじゃく）であったことを思い知らされました。
否応なしに、本年2009年は新秩序へむけて再生、創造を開始する年になったと言えます。
後世に振り返ると、節目が出来た年と呼ばれる年になるのではないのでしょうか。
またそのようにしなくてはならないと思います。
- 4 ご存知だったでしょうか、先週の2月12日（木）は「種の起源」のチャールズ・ダーウィンの200年目の誕生日でした。

あの有名な一節

「最も強いものが生き残るのではない、
最も賢いものが生き残るのでもない、
最も変化に対応できるものが生き残るのだ」

との教えを今あらためて思い起こすことが必要ではないでしょうか。

また奇しくも、200年前の1809年2月12日はリンカーン大統領の誕生日でもあります。

リンカーンと同じ聖書で宣誓した第44代オバマ大統領の

「WE CAN CHANGE」は

「最も変化に対応し生き残らねばならない」われわれへのメッセージでもあると思います。

1月10日のオバマ大統領の就任演説に感銘された人は多いと思います。
私もその一人です。

彼は言っていました、

「我々は危機のただなかにいる」、

だが「今日この日、我々は恐れより希望を、
争いや仲たがいより目的を共有すること
を選んだ。結果、こうして集まった」、

「リスクをとり、行動し、物を作り出す人々が繁栄と
自由への長いでこぼこ道を導いてきてくれたのだ。

その中には高名な人もいるが、多くは無名の働く男女
だ。」とのスピーチに

——改めて、「リスクをとり、行動し、物を作り出す」ために懸命に働か
ねばならないのだと肝に銘じた次第です。

- 5 さて、システムの世界で暮らす我々にとって「変化に対応する」、
「CHANGEする」ために何をなすべきでしょうか。

年始に各社の経営を訪問し、お伺いさせていただきました。

各社で共通していたお話は、

「この環境なので新規投資、大型投資は見直おさねばならない。」、

「しかし、この時期は、人材育成、優秀な人材採用を強化するには絶好の
タイミングである」、

「人材育成が経営課題のトッププライオリティということは変らない」
ということでありました。

各社とも変化に対応するには人材育成が大事との認識であり、
企業経営にとってはどんな時代にも

「普遍の原点、真理である」

と、心強く感じた次第です。

- 6 それゆえ、弊社の育成塾への期待、ひいては責任もより大きくなると気を
引き締めているところです。

育成塾の第4期は今年の5月13日よりユーザ企業向け、5月14
日より、情報サービス業向けを開講いたします。

これまでの内容を強化して実施する計画です。

7 強化の目玉は、講師陣です。

これまでの黒岩、松沢、そして東京スター銀行の村山C I O様に
加えて、鈴木美枝子が参加します。

鈴木美枝子は直近、リーマンブラザースなどの外資系証券会社2社での
デリバティブなどのバックオフィスのリーダ・マネジャーを10年以上
経験しております。

英語も堪能で、ユーザ現場としてグローバルなシステム導入を経験して
おります。

システム側の視点だけではなく、このユーザ現場の第一線での視点
を育成塾に加えてより充実したものになりたいと思っております。

(この場をおかりして鈴木美枝子を紹介させていただきます)

「紹介に与かりました新規売り出し中の鈴木です。

以後お見知り置きをお願い致します。

皆様とは違う立ち位置のユーザーとして、現場でシステムの方々と関わって参り
ました。

長年、私自身も感じ、年初来ご挨拶に伺った際に皆様からのご指摘もありましたが、
<システムとユーザーの間>には、業務の上でも、認識の上でも常にアイマイナ
空白が存在します。

私が経験した現場では、システム側が踏み込んでその空白地帯を埋めていま
したが、それが多くの元凶になってきたように思います。

ユーザー自身が空白地帯のギャップを埋めるような意識、能力を持つ事ができる
ようユーザー教育を行いお役に立てればと思っております。

後ほどこの場でも皆様方より、問題意識、ご意見、ご要望をお聞かせ頂けましたら
大変有り難く思います。

どうか、よろしくお願い致します。」

8 5月に開講する第4期の育成塾にはすでに多数の企業から、お申し込みを
いただいておりますが、本日のご出席の各社におかれましても引き続き参
加のご検討をいただければ幸いです。

- 9 また、今後の「WE CAN CHANGE」の計画として、
「我々はきちんとした教育を受けていない」
とのユーザ部門の声を受けて鈴木テクノロジストのもとで
「ユーザ部門向けのテクノロジスト育成塾」(BA育成、ユーザ部門へのIT教育)
を検討してきました。
最初の立ち上げは個々の企業の要請にしたがって、個別企業へ伺って実施するスタイルです。
受付で「ユーザ部門向けテクノロジスト育成塾について」と題した冊子を用意しております。
ユーザ部門に対する教育について「これを教えるべき」、「こんなコンセプト」などについてご意見、ご要望がございましたら、是非、鈴木テクノロジストまでお寄せください。
- 10 本日の情報交換会は「縁に出会って、縁を活かす」主旨です。
活発な交流をしていただけますようお願い致しまして、
ご挨拶にかえさせていただきます。
- 11 どうもご清聴ありがとうございました。

(了)